

第65回(2021年度) 北海道開発技術研究発表会論文

留萌開発建設部管内における地域活性化の取組 ーサイクルツーリズムからのアプローチー

留萌開発建設部道路計画課
留萌開発建設部道路計画課
(一社)北海道開発技術センター

○干場 宏幸
宗山 徳史
小西 信義

留萌開発建設部では、道路を活用した地域の活性化を目的に、シーニックバイウェイ北海道やサイクルツーリズムの推進など種々の取組を実施している。

本報告では、既存のサイクルルートである石狩北部・増毛サイクルルートをフィールドに、地域協働による勉強会をとおした地域の活性化に向けた取組状況について報告する。

キーワード：地域活性化、地域協働、サイクルツーリズム

1. はじめに（留萌管内の概要）

留萌開発建設部管内は、北海道の北西部に位置し、全9市町村（幌延町、天塩町、遠別町、初山別村、羽幌町、苫前町、小平町、留萌市、増毛町）が日本海に面している、海岸延長約200kmを有する地域である（図1）。

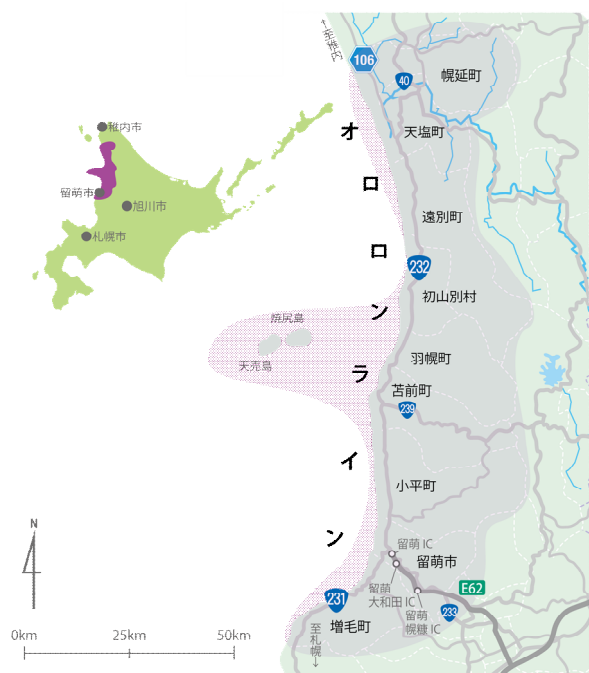


図-1 留萌管内の位置

北はサロベツ原野を挟んで宗谷地域、南は増毛山地を挟んで石狩地域、東は天塩山地を挟んで空知・上川両地域と接している。気候は対馬暖流の影響で緯度の割には比較的温暖であり、南北に長い地形のため、南部と北部の気温差が約2℃ある。夏季は風も弱く海も穏やかな日が続くが、冬季はシベリアから吹き付ける北西の季節風が強い風雪をもたらす地域である。

南北に縦断する国道231号・232号及び道道106号稚内天塩線（抜海線）は「オロロンライン」として親しまれ、暑寒別岳等の山並みや、天売、焼尻島への眺望、夕日の海岸、サロベツ湿原等、美しい自然景観を楽しむことができる。そのため、このオロロンラインはドライバーのみならずサイクリストにも日本の最北端・宗谷岬へと続く、「一度は走ってみたい道」として、今も昔もサイクリストの憧れの対象となっている（図2）。

留萌開発建設部では、「オロロンライン」の環境特性や路線特性、景観資源を活用した、地域活性化に向けた取組を進めている。特に、本稿では、管内のサイクルツーリズムによる地域活性化の取組について報告する。



図-2 自転車雑誌におけるオロロンラインの記事
(出典：『サイクルスポーツ』平成28年9月号、八重洲出版)

2. 管内の地域活性化の取組状況

本章では、留萌管内で展開されている主な地域活性化に関する取組について紹介する。

(1) 管内全体の地域活性化の取組

HOSHIBA Hiroyuki, SOUYAMA Norihumi, KONISHI Nobuyoshi

昨今、地域活性化の取組が管内各所で推し進められている。令和 2 年 3 月 28 日には道内初となる深川・留萌自動車道が全線開通し、札幌や旭川等の都市間を結ぶ高速ネットワークが形成された。さらに、留萌 IC に近接した場所に令和 2 年 7 月 11 日道の駅「るもい」がオープンし、同月 26 日には道の駅「るもい」も含めた留萌港周辺が「みなとオアシスるもい」として登録され、留萌地域のゲートウェイとして管内全体の地域活性化に大きく寄与する拠点が誕生した。さらに、道の駅に併設される屋内交流・遊戯施設「ちゃいるも」が令和 4 年春のオープンを控え、留萌市内外における交流拠点施設として新しい機能が付加されるところである。

令和 3 年 3 月 25 日には、留萌市と「株式会社モンベル」が、アウトドア活動等の促進を通じた地域の活性化と市民生活の質の向上を目的とした包括連携協定を締結するなど、今後管内のアウトドア観光の活性化が期待される。また、留萌観光連盟は留萌管内における全ての市町村で観光マップを発行し、その手描きによる親しみやすさから 11 版を数え管内の道の駅や観光拠点で無料提供されている（図 3）。このように、管内全体で地域活性化を目的に様々な取組が展開されている。



図-3 オロロンマップ（増毛町版）

留萌観光連盟ウェブサイト

(<https://www.rumoiclub.net/pamphlet/map/>)

(2) 留萌開発建設部による地域活性化の取組

「みち」をきっかけに留萌管内の美しい景観づくり・活力ある地域づくり・魅力ある観光空間づくりを官民協働で展開するシーニックバイウェイ北海道 萌える天北オロロンルート（平成 20 年設立）は、管内の国道の清掃活動等の美観形成を目的とした取組に加え、管内のダム・漁港・流雪溝等のインフラを観光活用する「インフラツーリズム」を管内旅行会社とタイアップし企画する事業や、サイクルツーリズムの振興に関わる取組として「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト」と総称し、サイクリストの受入環境を

整備するプロジェクトを令和元年度から展開している。

「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト」では、留萌管内の道の駅やシーニックカフェにて、空気入れや工具を貸し出す「オロロンライン・サイクルステーション」の整備や、管内道路維持業者 7 社の道路パトロールカーに、自転車用空気入れと工具を搭載し、トラブルに見舞われたサイクリストを支援する「サイクリスト・応援カー」を実装するなど、官民協働でサイクリストの受入環境向上を進めている。

さらに、萌える天北オロロンルートは「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト」の一環として、令和 3 年度からは北海道立苫前商業高等学校と連携し、令和 3 年 7 月末 2 泊 3 日に渡り、苫前町から留萌市・深川市・幌加内町を経由し苫前町に至る約 220km の自転車ツーリング事業を共同実施した。ツーリングの行程は高校生たちが検討を重ね計画したものであり、この事業をととして、高校生たちはオロロンラインのみならず、管内の隠れた魅力を発見することにつながった。さらに、このツーリング事業をきっかけにサイクルラックを高校生たちと官民協働で共同製作したりするなど、活動の幅をさらに拡大している（図 4・図 5）。製作したラックは、令和 4 年春以降苫前町内の道の駅や飲食店等に高校生自らが設置し、苫前町内のサイクルツーリズムの振興に活用される予定である。



図-4 苫前商業高等学校ツーリング事業



図-5 サイクルラックの共同製作

一方、北海道開発局では、平成 29 年度に「北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会」が設立され、令和元年 8 月には同検討委員会での検討を経て、「北海道のサイクルツーリズム推進方針」が策定され

た。同日「北海道サイクルルート連携協議会」が設立され、官民多様な関係者が連携・協働する場として現在 8 つの「ルート協議会（サイクルルート）」（図 6）が登録されている（石狩川流域圏ルートは調整中）。



図-6 ルート協議会地図

これら 8 つの「ルート協議会」のうち、「石狩北部・増毛サイクルルート」（増毛町の一部が登録）及び「きた北海道ルート」（天塩町の一部が登録）において、令和 3 年度に当部により案内サインや路面表示矢羽根を設置するなど、サイクリストの走行環境の向上を図っている（図 7・図 8）。



図-7 案内サイン（増毛町市街地）



図-8 路面表示矢羽根（増毛町郊外）

以上、留萌管内で展開されている主な地域活性化に関する取組について紹介した。それらに加え、当部では観光地域づくりによる地域活性化を図ることを目的とした「留萌地域ツーリズム勉強会」を開催している。次章からはこの勉強会について詳述する。

3. 留萌地域ツーリズム勉強会

(1) 概要

ツーリズム勉強会は、地域の魅力を観光資源として活かすことで、地域づくり及び交流人口の拡大による地域活性化方策を実践することで、地域活性化を図ることを目的とする、平成 30 年度に当部が設置した勉強会である。

ツーリズム勉強会の構成員は、留萌管内全域の役場職員、観光協会、地域おこし協力隊、観光事業者等の各市町村の観光や地域活性化に取り組んでいる方々、有識者として石田眞二教授（北海道科学大学 工学部 都市環境学科）、勉強会運営事務局として留萌開発建設部の 3 者によって構成される。

ツーリズム勉強会の運営は、最新の観光動向を専門家から講演いただいた上で、参加者全員が車座となり留萌地域の観光の考察を進めたり、地域活性化に向けたアイデアを出し合ったりできる自由な場づくりを目指した。

(2) 経緯

第 1 回から第 4 回までのツーリズム勉強会の開催経緯を表 1 に記す。第 1 回及び第 2 回においては、SNS や GIS データを活用した最新の観光動向分析から留萌地域における観光の現状把握等を行い、第 3 回目では、ナビタイムジャパン等の専門家からの知見を吸収しながら留萌地域における観光地域づくりについてアイデアを蓄積してきた。

第 4 回目では、増毛町をフィールドにサイクルツーリズムを活用した観光地域づくりの実践を進めていくことを方向づけられた。この背景としては、「北海道総合開発計画」（平成 28 年 3 月閣議決定）にて、北海道の特徴的で魅力的な観光資源を活かしながら「世界水準の観光地」の形成を目指すことが位置付けられたことのみならず、増毛町が世界水準のサイクルツーリズム環境の実現を目指し「石狩北部・増毛サイクルツーリズム推進協議会」に参画した初年度であったことにある。これらの背景により、地域活性化方策を実践し、地域活性化を図ることを目的とするといったツーリズム勉強会の主旨を体現できるフィールド及びテーマとして、増毛町におけるサイクルツーリズムの振興が最適であるという考えに至った。

表-1 留萌地域ツーリズム勉強会開催概要（第1回～第4回）

開催概要			テーマ／勉強会の内容
第1回	H31 年 2/13	羽幌町	【留萌地域の魅力】 SNS を分析し、留萌の地域資源がどのように捉えられているかを確認し、参加者で意見交換を行った。
第2回	H31 年 2/26	苫前町	【留萌地域の魅力と課題】 留萌地域のドライブ観光客の行動分析結果から、インバウンド誘致に向けたアイデア出しを行った。
第3回	R 元 年 8/21	初山別村	【ツーリズムを活用した地域活性化】 ドライブ観光分析や地域 PR 手法の話題提供から観光を活用した地域活性について意見交換を行った。
第4回	R2 年 2/6	増毛町	【るもい地域でのサイクルツーリズム推進】 留萌地域のインバウンド観光客動向の把握、自転車を活用した観光地域づくりの方向性を確認した。

(3) ツーリズム勉強会（5 回目以降）の実例紹介

前項で触れた過去 4 回の勉強会の結果を受け、増毛町をフィールドにサイクルツーリズムをととした地域活性化の取組事例を以下紹介する。

(3)-1 概要

第 5 回目以降のツーリズム勉強会は、これまで計 4 回の勉強会における気付きやアイデアを実践するため、増毛町内のサイクルツーリズムを切り口とし、留萌管内における地域活性化や観光振興の考え方や手法を勉強会参加者自らが発案していくことを目的とした。なお、ツーリズム勉強会では、基幹ルートである「石狩北部・増毛サイクルルート」から分岐する地域ルートの磨き上げを中心的に取り扱うこととした。

ツーリズム勉強会の構成員は、引き続き、石田眞二教授に有識者として助言をいただきつつ、増毛町役場、増毛町観光協会、増毛町地域おこし協力隊といった町内の観光に深く関係する方々、さらに、増毛町以外の観光関係者にも継続的に参画いただいている。

以下、これまでの増毛町における留萌地域ツーリズム勉強会の開催結果とその成果を報告する。

(3)-2 第 5 回ツーリズム勉強会（令和 2 年 9 月 4 日）

第 5 回ツーリズム勉強会では、地域ルートを自転車やバスで視察し、走行環境・受入環境・情報発信について課題を洗い出し、地域関係者と意識の共有を図った（図 9・図 10）。

地域ルートの視察については、事前に試走方法（バスもしくは、自転車）を募集し、さらに自転車においてはロードバイクやクロスバイク、電動アシスト自転車等さまざまなタイプの自転車を準備し、自転車試走会の間口を広げた。当日は地域ルートの走行環境・受

入環境・情報発信について、増毛町内の地域サイクリストに先導を依頼し安全性を確保しながら、道中果樹園に立ち寄ったり公衆トイレの使い勝手を確認したりした。その後、ワークショップ形式で地域ルート視察の感想や今後のサイクルツーリズムの振興に向けた取組メニュー（案）を検討した。



図-9 試走会の様子



図-10 意見交換会の様子

第 5 回ツーリズム勉強会で参加者の意見やアイデアをもとに、地域ルートの特徴（コンセプトやターゲット、観光スポットや飲食店情報、立ち寄り施設等）や課題（安全走行上懸念される箇所や曲がり角がわかりにくい箇所等）をサイクル



図-11 サイクルルートマップ
（街中ぐるっとちょいっとコース）

ルルートマップとして可視化した（図 11）。

なお、サイクルルートマップは令和 3 年 3 月より増毛町ウェブサイトにて試行的に掲載されている。

(3)-3 第6回ツーリズム勉強会（令和3年11月1日）

第6回の勉強会では、第5回ツーリズム勉強会の成果をもとに作成したサイクルルートマップを検証することを目的に開催した。具体的には、試走調査を再び行い、試走調査後にはワークショップ型式でサイクルルートマップの課題や改善方法の整理を行った。

試走調査では、第5回ツーリズム勉強会のように先導ガイドを設けず、サイクルルートマップを手掛かりに、自力でモデルルートを走行し所定の時間までに到着するといった課題設定をすることで、サイクルルートマップの使い勝手を検証した（図12）。自由走行による試走調査だったことから、参加者は旧増毛駅で廃線跡を写真撮影したり、海岸線や暑寒別岳への眺望を楽しんだり、果樹園で店主とのふれあったりいろいろな体験を行っていたようで、改めて当該地域ルートの魅力を参加者で共有することができた。

試走調査後、サイクルルートマップの使い勝手についてのワークショップでは今後の改訂に向けた課題や改善方法を整理した（図13）。



図-12 試走調査の様子



図-13 ワークショップの様子

次回以降のツーリズム勉強会では、掲載情報を精査したサイクルルートマップの改訂版について再び検証し、地域ルートの魅力を紹介するサイクルルートマップを作りたいと考える。

また、他地域におけるサイクルツーリズムの振興に関わる事例を専門家から紹介していただく機会を設けることで、増毛町におけるサイクルツーリズムの振興に向けた取組メニューを検討し、更なる地域活性化方策の磨き上げを進める。

4. まとめ（今後の展望）

以上、留萌開発建設部管内における地域活性化の取組を紹介しつつ、特に増毛町における既存サイクルルートをフィールドに、地域協働による勉強会をととした地域活性化に向けた取組状況について報告した。

第5回目以降のツーリズム勉強会では、サイクルツーリズムをツールとした地域活性化方策の実践を目的とし、2度の試走調査やワークショップやサイクルルートマップの作成を行った。このツーリング勉強会をとおして、勉強会の参加者が、サイクルツーリズムを自市町村で取り組んでいく場合、現在増毛町での取組がモデルケースとなることを期待している。

今後の展望としては、ツーリズム勉強会で蓄積された成果が、増毛町におけるサイクルツーリズムの振興に繋げていくことが必要と考える。また、増毛町におけるツーリズム勉強会の成果を増毛町内だけに留めるのではなく、管内の他市町村に拡大することも必要である。そのためには、本稿で紹介した留萌地域ツーリズム勉強会を継続的に開催し、サイクルツーリズムをテーマとした地域活性化方策をひとつでも多く着実に実践し、実践から生まれる成功体験を参加者たちと積み重ねていくことが重要だと考える。これらの経験の蓄積が留萌管内で伝播されることを期待し、今後もサイクルツーリズムをツールとした地域活性化方策を実践していきたい。